

## 武蔵野市オープンハウス（7.30）のまとめ

### 下記の要望・質問について

- (1) 現時点で回答できるものは回答してください。
- (2) 検討中のものは、検討結果が出次第回答してください。
- (3) 今後、説明会、懇談会、学習会などでの意見交換を要望します。

#### ①武蔵野市の『交通問題』

「むさしの地区外環問題協議会」学習会（講師：大胡課長他）開催希望

#### ②『安全』について懇談

#### ③大深度トンネルのシールド工法についての説明会

#### ④5月19日に発表になった「再評価」資料4-2-①について説明会

### (1) 安全

要望—①横連絡坑で隣のトンネルに逃げた後、どのようにして地上まで行くか知りたい。

A：歩くか、緊急用の車両を待つ。まだ、検討中で示せない。

②上り線、下り線の両方で発災した場合の対策を知りたい。

A：今後の検討ケースです。

③本線トンネルに360mおきに横連絡坑を造った場合、本線トンネルの強度は何割くらい弱くなるのかを知りたい。

A：特殊なセグメント（鋼（はがね）の性セグメント~~♀~~）を使うから、強度は落ちない。

④武蔵野市部分の横連絡坑の位置を地図上で示したものをほしい。

A：位置を検討中。できたら、お示しする。計画当初に発表したものとそれほど違ってない。

⑤横連絡坑の工事实績（経験）について知りたい。

⑥横連絡坑の近年の事故事例について知りたい。（再評価の26p）

A：首都高速中央環状品川線での事故。本線と換気所を接続する部分で起こった出水事故。横連絡坑ではないが、工法が同じ。

⑦工事中にシールドマシンが故障した場合、トンネル内で補修できる保障はあるのか知りたい。

⑧シアトルでのシールドマシンの故障の話をいろいろ聞いた。外環で地上（上）から掘ることはないとの答えだったが、その根拠を知りたい。

A：コスト的にも発進坑から修理する。

質問—⑨横連絡坑の直径は？

A：検討中。（会場での返答では2～3メートル。車両用の横連絡坑は3～4メートル。）

⑩横連絡坑を（床版下方式ではなく）選択した理由をききたい。

A：強度は床版下方式の方が強いが、一度に逃げられる人数が少ない。複数の避難方法を検討中だが、避難方式が二つあると、利用者が混乱するということもある。

⑪交通事故、火災事故のほか、サリンなどの化学物質、集中豪雨、テロの標的になった場合

についてどのように検討しているのか。

A：回答なし。

**要望**：検討中が多く、住民は不安。学習会などで、安全については更に回答がほしい。

## (2) 環境

要望—①大深度トンネル工事に使用するセグメント、裏込め材の成分、薬品名、化学物質名を知りたい。

A：発注者側では受注者が使用が認められているものの範囲で使う薬品名までは特定していない。

Q：質問者は専門知識を持っているので、薬品名などの公表を求めている。

②地下水の変化によって引き起こされる地盤変動を現時点、工事中、工事後に測定する必要があると考える。第三者機関で、測定、監視してほしい。

A：地盤変動の調査は工事の中で考えている、→後述

③環境モニタリング調査に低周波の項目を加えてほしい。調査は工事終了後も継続してほしい。調査地点に武蔵野市内も追加してほしい。

A：低周波の原因は車両の通行と、排気塔のモーターなど。供用後に低周波の測定はする。調査地点については不詳。

④環境モニタリングの調査結果を印刷物で市役所および3コミセンにほしい。

A：検討する。

⑤換気塔には脱硝装置をつけてほしい。対応の方針にも記述がある。

A：明確な回答はなし。

質問—⑥横連絡坑の工事にも薬品の注入があると書いてあった。この新たな薬品について、武蔵野市の地下水、ひいては水道水への影響は心配ないのか。武蔵野市の水道水の80%は井戸水である。薬物の注入をした場合、水質検査をする必要がある。

A：回答なし。(地下水への影響については考えていなかった模様。)

## (3) 家屋調査——この項は時間がなくなり、質疑はありませんでした。

要望—①補償期間について、住民の要望を取り入れてほしい。

A：回答なし。

②家屋調査書をトンネルが有る限り保存してほしい。

A：紙での保存は無理だが、電子データで保存されている。

③家屋調査の対象件数、調査済み件数、調査を拒否された件数など公表してほしい

A：(明確な回答はないが、公表する方向と考えられる。)

④補償が長期にわたることを考えても、最終的に国交省が責任を持ってほしい。

A：(質問の意図が伝わっていない。)

⑤家屋調査の事後調査を全家屋について行ってほしい。

A：要望があった家屋については、事後調査をする。

質問—⑥横浜環状北線や首都高で作ったような第三者の地盤変動監視委員会を作ろうとしないのはなぜか。損傷と原因の因果関係を判断するのが当事者というのは公正ではない。

A：既存の検討委員会（トンネル施工等検討委員会のことらしい）を使うか、新しくつくるかは決まっていないが、検討している。

⑦工事終了後、1年以上経ってから建物地盤等に不具合、損傷が起きた場合、どこに申し出ればいいのか。供用後は管理部門というが、外環の所有者は誰なのか。NEXCO はどういう立場なのか。仮に損害賠償の訴えを起こすとしたら、だれを被告としたらいいのか。

#### （4）交通問題（学習会ではとりあげず、今回初めて。時間切れ）

①青梅街道インターチェンジができることによる武蔵野市内道路への影響について。

②特に、女子大通りにつながる生活道路への車の流入について。

「対応の方針」には、外環をつくと抜け道の交通が減ると書いてあるが、示されたデータと矛盾していないか（グラフ 女子大通りの通行量は増える）。

武蔵野市の交通量の変化のデータ、対応の方針、武蔵野市の地図、「話し合いの会」で出された東京都のデータなどを示して、質問。

特に、宮本小路・東十一小路の交通量が、H14年には8000台/日だったのが、H27年には2800台/日になった例など、国が知らない事実を紹介。

**要望**：武蔵野市の「交通問題」だけで、学習会を開催してほしい。

#### （5）その他（時間切れ）

要望—①掘削した土砂の運搬ルート、搬送方法、搬送先を知りたい。

車両で道路を運ぶのではなく、高速道路をベルトコンベアで運ぶという話はどうなったのか。

②大深度トンネルのシールド工法についての説明会を開催してほしい。

③5月19日に発表になった「再評価」資料4-2-①について説明会を開催してほしい。

④工事日程を公表してほしい。

⑤大畑課長のときに始まった、むさしの地区外環問題協議会の「学習会」の講師としてご登壇くださる方式を続けていただきたい。

⑥費用便益（B/C）が変更になっているが、新しく発表になった1.9も、同じ平成17年の交通センサスを使っている。この変更について説明してほしい。

質問—⑦なぜ、平成22年度の交通センサスを使った費用便益が出てこないのか。

パネルの前の職員は、まだ、上から来ないという回答。

H17年の交通センサスを10年間使い続けているのでは、何のために5年ごとに調査しているのか分からない。交通量は減少しているといわれているが、それがどこにも反映されないのはおかしくないか。

③トンネル技術検討委員会については、HP上で、資料と議事概要を公表しているのに、トンネル施工等検討委員会については、資料と議事概要が全く公表されていないのはなぜか。

以上